

# 人權啓発DVD

門真市

人權市民相談課

## A 人権関係 ～企業研修向け～

題 名	内 容
企業と人権	<p>—企業にとって人権とは—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメント</li> <li>・「L G B T（性的少数者）に対する差別・偏見」</li> <li>・「障がいのある人に対する差別・偏見」</li> <li>・「外国人に対する差別・偏見」</li> <li>・「えせ同和行為」</li> </ul>
アンコンシャス・バイアスをなくそう	<p>—無意識の偏見のない誰もが安心して働ける職場をめざして—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンコンシャス・バイアスとはなにか</li> <li>・アンコンシャス・バイアスを取り除く方法</li> <li>・少数派とアンコンシャス・バイアス</li> </ul>
今企業に求められる「ビジネスと人権」への対応	<p>—企業が尊重すべき人権の全体像—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業が尊重すべき主要な人権と人権に関するリスク内容</li> <li>・企業に関する取り組みが事業活動に与える影響</li> <li>・企業による人権への取組の在り方</li> <li>・企業の事例</li> </ul>
障がいのある人と人権	<p>—誰もが住みよい社会をつくるために—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいとは</li> <li>・障がいのある人が直面する人権問題</li> <li>・誰もが住みよい社会をつくるためには</li> </ul>
外国人と人権	<p>—違いを認め、共に生きる—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭・地域でみられる偏見や差別」</li> <li>・「職場でみられる偏見や差別」</li> <li>・「ヘイトスピーチ」</li> <li>・「多文化共生社会をめざして」</li> </ul>

題 名	内 容
インターネットと人権	—加害者にも被害者にもならないために— <ul style="list-style-type: none"> <li>・「下着姿の画像を送信してしまった事例」</li> <li>・「インターネットの落とし穴」</li> <li>・「無断で個人情報をインターネット上に公開してしまった事例」</li> <li>・「加害者にも被害者にもならないために」</li> <li>・「インターネットの危険性」</li> </ul>
すべての人々の幸せを願って	—国際的視点から考える人権— <ul style="list-style-type: none"> <li>・国連の人権への取り組み</li> <li>・女性の人権</li> <li>・子どもの人権</li> <li>・障がいのある人の人権</li> <li>・外国人の人権</li> </ul>

## B 人権関係 ～子どもの人権～

題 名	内 容
未来を拓く未来を拓く 5つの扉 ～全国中学生作文コンテスト入賞作品朗読集～	全国中学生人権作文コンテストでは、次代を担う中学生が、身の回りで起きたいろいろな出来事や体験などから、人権について考えていきます。このビデオでは、入賞作品の中から 5 編の作文を朗読して、アニメーションやスライドで紹介します。中学生が作文の中で呟いている言葉に、あなたも耳を傾けて下さい。それが、きっと、新しい明日への一歩に繋がっていることでしょう。

## C 同和問題

題 名	内 容
橋のない川	1912 年小森の子どもたちの一人、畑中孝二は 11 歳。明治天皇の葬儀が講堂で、人々を集めて行われた。黙祷する暗闇の中で、孝二の手を隣にいた級友のまちえが握った。まちえの気持ちは他にあったが孝二は、まちえに恋心を抱く。厳しい部落差別の中、人々への部落差別への熱い闘いと全国水平社が創立されていく過程を描いた「住井すえ」の名作。
部落の歴史 中世～江戸時代 差別の源流を探る	部落史観の転換を受け、期限から現代まで新しい部落史観の紹介をしています。部落差別は中世からの差別がその源流にあります。人々が担ってきた役割は穢れたこと、汚いことと思われてきましたが、生活には必要不可欠なことでした。江戸時代に入ると、身分が固定化されるようになり、差別はより厳しくなっていました。
部落の歴史 明治～現代 近代化が存続させた差別	1871 年解放令によって制度上の身分差別は廃止されましたが、人々は就職差別によって不安定な雇用を強いられ、生活は貧しく、部落はスラム化していきました。貧困や学歴などを理由とする明治以降の差別意識と、中世からの古い差別意識が重なり合って、現代の差別意識が形成されました。
同級生	子どもの頃、友達だった二人の父親が、部落差別が原因で別れてしまった。それぞれの子どもたちや家族同士の触れ合いで、再び部落差別と向き合いながら、友情を取り戻していく姿を描いています。今、同和問題を解決していくうえでの課題の一つに家庭教育の在り方が問われています。親が子どもに伝えなければならないことは何か。今一度、家庭における教育の大切さを考える手掛かりとなるよう制作されました。

題名	内容
部落解放運動の歩み 人間は尊敬すべきもの	<p>全国水平社創立から 2012 年までの部落解放運動の歩みを 3 部構成にしました。部落差別の入門的な教材として活用できます。全編にナレーションを字幕として入れていますので、歴史的擁護や固有名詞なども理解しやすくなっています。</p> <p>戦前編…水平社運動 戦後編Ⅰ…部落解放運動の再出発 戦後編Ⅱ…部落解放に向けた新たなステージ</p>
同和問題 ～過去からの証言、未来からの証言～ 同和問題 未来に向けて	<p>この教材は、我が国固有の人権問題である同和問題に焦点を当て、国や地方公共団体、企業等の様々な団体における人権教育・啓発に携わる職員等が身に付けておくべき同和問題に関する歴史的経緯、当時の社会情勢、問題の本質等について、関係者の貴重な証言や解説等を中心にわかりやすく簡潔にまとめています。また、一般市民を対象とした、啓発現場においても使用できる有効なツールとしての映像も併せて製作し、同和問題の解決のために次世代へ伝承するものです。</p>

## C 障がい者関係

題名	内容
知的障がい者の雇用の道～歩みはじめた医療現場の実態から～	<p>医療現場には様々な業務がある。その切り出し方や組み立て方によっては多くの障がい者のチャレンジが可能になる。本作品は、「知的障がい者を医療現場へ」を元に最新事例を用いたドキュメンタリー。</p>

## D 男女共同参画関係

題 名	内 容
夢へのサポート	<p>女性が元気に活動していることに伴い、地域を活性化している事例が全国各地で多く見られます。子育てに関して No. 1 の街を作りたい。地元の伝統食を学び、現代にも発信していきたい。団塊の世代が元気を生み出す街にしたい。これら地域づくりに取り組み、元気に活動する女性達を紹介します。</p>
明日への道しるべ ※女性サポートステーション WESS にて管理	<p>—街づくりにかける元気な女性達—            青森県八戸市に住む女性たちは、街づくりのための学習会、情報交換などの活動を行って、八戸の観光マップを作成しました。</p> <p>—伝えたい民話で語る村の心—            福島県大王村では、16人の女性メンバーが、郷土料理と民話の語りを聞く茶屋をオープンし、地域の活性化に挑戦しています。</p>
配偶者からの暴力の根絶をめざして	<p>配偶者からの暴力は、犯罪となる行為も含む重大な人権侵害です。配偶者からの暴力は、私たちの身近なところで起きています。配偶者からの暴力根絶を目指して、「配偶者暴力防止法」の仕組みについてわかりやすく紹介しています。</p>
人と人のより良い関係をつくるために	<p>若年層を対象とした、交際相手からの暴力の予防啓発教材です。交際相手の男子高校生からの暴力。交際相手を独占したくて携帯を取りあげる女子生徒。家族の留守中に女子生徒を家に呼ぼうとする男子生徒。三つのストーリーを使った授業を、指導者向けにわかりやすく解説した教材です。若年層が視聴することもできるよう構成されています。</p>

題 名	内 容
私らしくマイノリティを生きる ※女性サポートステーション WESS にて管理	国連・女性差別撤廃条約は、できてから 30 年以上たちますが、生きている国際条約として日々発展しています。この作品では、複合差別を乗り越えようとする当事者たちが登場します。
あなたがあなたらしく生きるために	性・セクシュアリティはとても多様です。しかし、それをしっかり理解してくれる人はごく僅かでしょう。そのため、性的マイノリティの多くが生きづらさを感じています。誰もがありのまま受け入れられ自分らしく生きたいと望んでいます。その社会を実現させるためには、まず相手を正しく理解し、偏見や差別をなくす必要があります。この教材は、性的マイノリティについての人権の視点で理解を深めることがねらいです。性的マイノリティの入門編としてご活用ください。
デートDV って知っていますか	自分を大切にしていますか。交際相手を大切にしていますか。デートDV についてわかりやすく解説しています。

## E 外国人関係

題 名	内 容
言葉で輝く 第2巻 二つの言葉のはざままで 国際化の中の識字 (1 巻 B96)	結婚や仕事で、外国から日本に来て生活している人が増えてきていますが、日本語を身に着けることに困難を抱えている人が多くいます。豊中国際交流センターで、日本語を学ぶ人々の学習と生活の状況から、私たちの課題を考えます。日本語を身に着けると同時に、自分の支えてきた文化を大切にし、それへの理解を広げていくために、母語教室を開く人。母語を保証する教育の必要性も示されています。

題 名	内 容
言葉で輝く 第3巻 —最初の一步のために 私たちができること—	地域で識字を学ぶ人や、日本語交流教室で学ぶ人々がいます。その中には、日本人、在日韓国・朝鮮人、日本に来て定住した中国人、フィリピン人、ベトナム人など、様々な国の人々がいます。同じ地域に住む人の協力で、これらの人々が共に学び、つながりを深めていく様子が描かれています。そこでは、交流を通じて、お互いの文化や歴史についても理解が深められています。

## F 平和関係

題 名	内 容
拉致 許されざる行為	拉致などありえないと言っていた北朝鮮は、2002年、日本人の拉致を認め、一部の人達は帰国できましたが、今なお、多くの人達が行方不明とされています。被害者の家族は、街頭署名や集会・陳情等の活動・手配の出版等を通して、一日も早い拉致問題の解決を訴えています。また、映画「めぐみ・引き裂かれた家族の30年」の制作で、国際的にも関心が高まっています。